



## 東武動物公園駅西口駅前広場が完成 ～開通記念式典を実施～



独立行政法人都市再生機構（東日本都市再生本部〔本部長：新居田 滝人<sup>にいたたきと</sup>〕）が東武動物公園駅前にて施行する土地区画整理事業（幸手都市計画事業東武動物公園駅西口土地区画整理事業：埼玉県南埼玉郡宮代町）の基盤整備工事が概ね完了し、平成 27 年 2 月 23 日(月)から駅前広場が一般の方にご利用いただけることとなりました。

この土地区画整理事業は、遊休化していた駅前の鉄道修理工場跡地の土地利用転換及び駅前の交通拠点形成により、宮代町の中心市街地活性化、駅を中心としたまちづくりの推進を目指したもので、埼玉県及び宮代町からの事業要請に基き、平成 23 年度から都市再生機構が施行する土地区画整理事業として実施され、平成 27 年度末の事業完了を予定しています。

駅前広場の新設により、駅周辺で滞留していた公共路線バス、自家用車等が駅前に乗入れ可能となります。駅の交通結節機能が強化されるとともに、駅利用者の利便性が格段に向上します。

今後、宮代町の新しい玄関口として、駅周辺のにぎわい創出の効果が期待されます。

駅前広場の完成に合わせ、同日、宮代町とUR都市機構の共催により、駅前広場開通記念式典を執り行います。

### 【報道関係の皆さまへ】

取材等でご来場される場合は、当日、受付にてお名刺のご提示をお願いします。

また取材用の腕章をご持参願います。

お問い合わせは以下へお願いします。

東日本都市再生本部 東武動物公園駅前都市再生事務所  
事業調整課

(電話) 0480-32-8670

東日本都市再生本部 総務部 総務チーム

(電話) 03-5323-0087

開通記念式典について、この事業に携わった行政及び東武鉄道等が会して以下のとおり開催することとなりましたので、報道関係の皆さまにお知らせいたします。

## 開通記念式典概要

### ① 主催者・催事名

主催者：宮代町、UR都市機構（共催）

催事名：幸手都市計画事業東武動物公園駅西口土地区画整理事業  
東武動物公園駅西口駅前広場開通記念式典

### ② 開催日時

平成27年2月23日（月）午前10時から11時まで（午前9時30分受付開始）  
（荒天中止）

### ③ 開催場所

埼玉県南埼玉郡宮代町中央1丁目  
東武動物公園駅西口駅前広場

### ④ 招待者

埼玉県、宮代町議会議員、東武鉄道

### ⑤ 式典内容

主催者挨拶（宮代町長、UR都市機構東日本都市再生本部長）

来賓挨拶（宮代町議会議長）

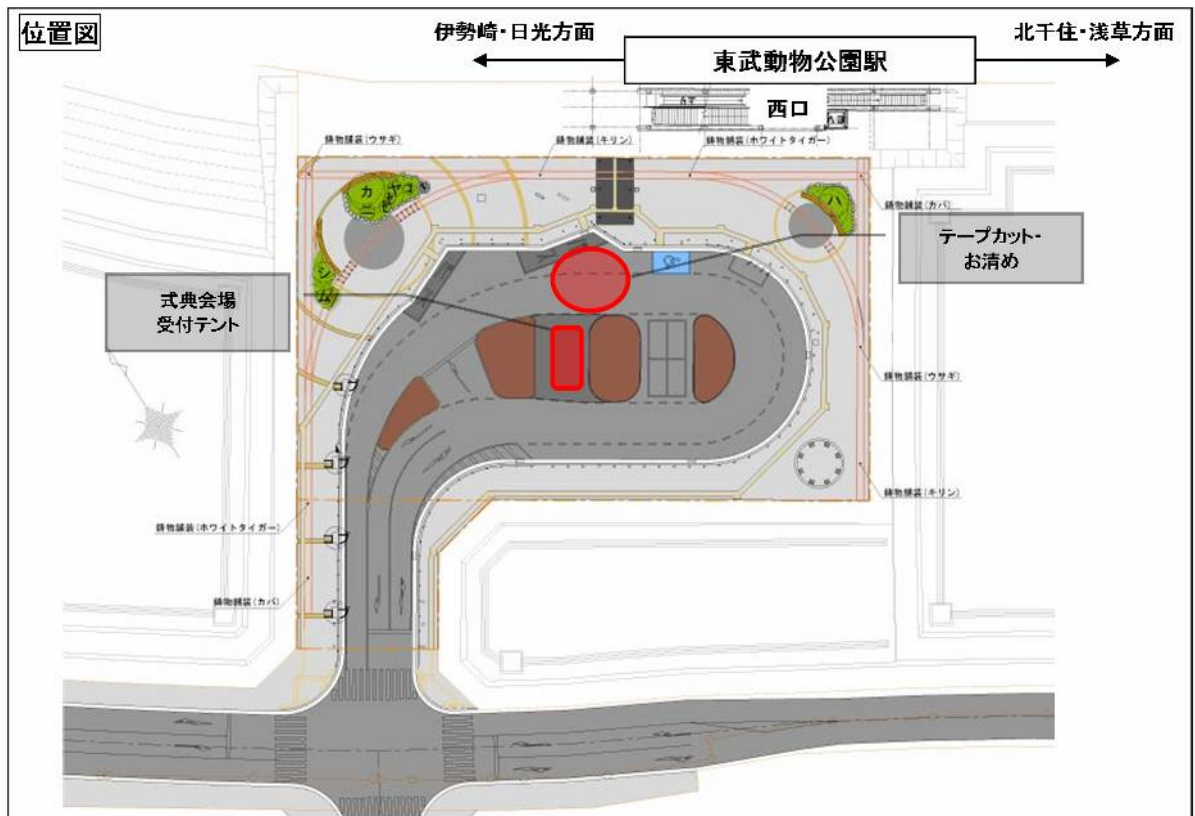
テープカット

お清め・交通安全祈願

駅前広場見学

### ⑥ アクセス

東武伊勢崎線（スカイツリーライン）・日光線「東武動物公園」駅西口



<土地区画整理事業の概要>

事業名称：幸手都市計画事業東武動物公園駅西口  
土地区画整理事業

施行者：独立行政法人都市再生機構

所在地：埼玉県南埼玉郡宮代町中央一丁目他

面積：約 5.0ha

事業期間：平成 23 年度～平成 27 年度

事業費：約 14 億円

整備概要：都市計画道路(W=19m, 16m, 駅前広場)新設  
区画道路(W=8m, 6m, 4~5m)新設・一部拡幅  
公園新設

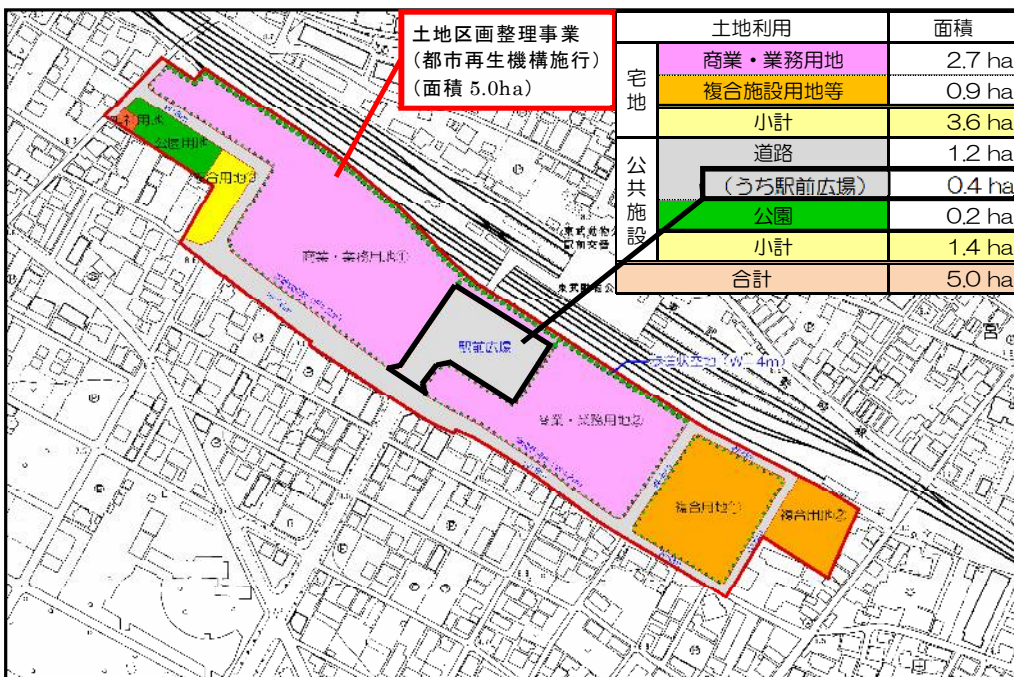
(位置図)



(整備前現況)



(土地利用計画)



<東武動物公園駅西口地区土地区画整理事業のポイント>

【地方公共団体の支援】

町による事業化が困難だった駅周辺整備を、都市再生機構施行(土地区画整理法第3条の2)による土地区画整理事業として、事業化。マンパワーが必要な地方公共団体を支援

【鉄道工場跡地の機能更新】

機能移転により遊休化した駅前の鉄道修理工場跡地を商業・業務等の複合用途の土地へ転換

【公共空間・施設の整備】

駅前広場が未整備で前面道路が狭小な駅周辺エリアを土地区画整理により公共空間を創出し、駅前広場、道路の整備により、県道と駅前のアクセスを改善。駅の交通結節機能を強化するとともに駅利用者の利便性を向上。また、街区公園も整備し、周辺居住環境を向上

【URのまちづくりノウハウの活用】

環境、バリアフリー、子育て目線に立った公共空間整備、用途転換と合わせた面的整備を迅速確実に実施

(経緯)

- 平成 12 年度 ・町が中心市街地基本計画等を策定
- 平成 15 年度 ・町が工場跡地を含む区域での区画整理事業を検討
- ・東武鉄道が工場の機能を外部に移転
- 平成 19 年度 ・東武鉄道、町、URの3者勉強会を開始(～H20)
- 平成 21 年度 ・町から「まちづくり構想案検討業務」を受託
- 平成 22 年度 ・県、町からURに法定要請
- ・東武鉄道、町、UR3者による基本協定締結
- ・都市計画決定(区画整理区域、都市計画道路)
- 平成 23 年度 ・事業計画認可
- 平成 24 年度 ・都市計画決定(用途容積変更、地区計画)
- 平成 25 年度 ・仮換地指定、工事着手
- 平成 26 年度 ・基盤整備工事完了
- 平成 27 年度 ・換地処分(予定)



【景観への配慮】  
電線類の地中化



電線共同溝  
(整備状況)



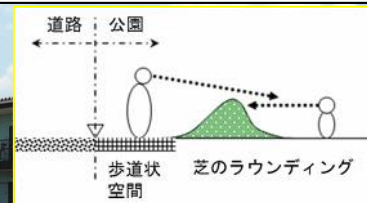
【鉄道工場跡地の記憶を継承】  
鉄道を感じさせるデザイン



【バリアフリー】  
切下部での無段差移行



【子育て視点での設計】



靴の濡れにくい手洗い 幼児の道路への飛び出し抑制  
子供を見守るベンチ配置 等

### <駅前広場概要>

面積:約 3,500 m<sup>2</sup>

整備施設:バス乗降場(2ヶ所)、タクシー乗降場(各一箇所)、送迎車両停車スペース、バス上屋、タクシープール、バス待機場 等

### <整備上の特徴>

- 景観の向上 :電線類を地中化、駅周辺エリアにおける都市景観の向上
- 環境への配慮 :遮熱性透水性インターロッキング、遮熱性舗装、雨水浸透トレンチを整備、道路整備に伴う都市熱環境悪化の抑制を図ると共に、雨水の地下還元を促進
- 記憶の継承 :鉄道工場跡地の記憶を未来に継承するため、鉄道を感じさせる線路をイメージしたデザインを行い、また、当地で実際に使われていた転轍機(てんてつき)や レールをオブジェとして設置
- 宮代らしさ :「農」あるまちづくりをイメージする木材使用や「和」テイストでの施設整備。巨峰栽培地としての宮代カラーの紫を照明施設、植栽により表現。進修館とのデザインの呼応、東武動物公園に因んだ舗装デザイン(動物の足あとの鑄物舗装)
- 地域材の活用 :バスシェルターのルーバー、横断防止柵に県産木材(杉、檜)を使用

(駅前広場整備計画図)

